



角森 雍次郎
(元社会科教員)
昭和 45 年～ 58 年

恩師より

東住吉の思い出

昭和 45 年、あの大阪万博の春、東住吉高校へ奉職しました。あれから半世紀が経ちましたが、この初任校のあらゆることが私の職業生活上の基礎をなしていると言えます。いきなり 15 期生の 2 年生の担任となりました。当時はまだ高校紛争の名残がある時期でしたので世界史の授業ではつるし上げを受けたこともありました。創立時からの當麻寺勉強合宿では、PL の花火を見るため生徒たちが夜の学習がすんだあと無断で二上山へ登ってしまい冷や汗をかきました。

しかしなんといっても霧ヶ峰です。担当教員の献身的な様々な準備は何物にも代えがたい教育効果を生んだのでした。ただでさえ教員の過剰労働が問題となっており、今では望むべくもありません。

最大の行事は体育祭です。生徒の自主性を育む上ではこれ

以上の教育活動はありません。観客席やマスコットの設営には学校常備の丸太を生徒が番線を篠（シノ＝巻き込んで締め付ける道具）で結束していくのでした。応援団はすでに夏休み中からリーダーたちが研究していたようですし、2 学期に入ると校内は何となくざわめきたっていました。創立周年誌をめくってみても、各年度の印象深い出来事として、ほとんどが体育祭を取り上げているのを見て驚きます。

部活動も盛んでしたが、私は 16 期のころ山岳部を引率して北アルプス後立山連峰を 1 週間かけて縦走したことが唯一強烈な思い出となっています。

何度か現れては消えていた制服自由化問題が生徒会顧問をしているとき急に高揚してきて、混乱を生じ、ついに生徒に押されて自由化が決定したこともありました。

昭和 58 年この学校を去り、やがて現役生活も終わって長い時間が過ぎて思い起こしてみますと、東住吉の生徒は基本的にきちんとした生活習慣があり、私のようにいわゆるサラリーマン教師でも教師然として指導ができるような、よくできた生徒たちであった、という思いを強くします。本当に感謝でいっぱいです。



吉川 憲司
(体育科教員)
普通科 16 期生

現役の先生より

16 期生の吉川憲司です。東住吉高を卒業して半世紀を迎えようとしています。幸せな事に定年退職を挟んで 14 年間母校で勤務させていただいております。(令和 2 年度、3 年度は非常勤講師) 令和 2 年度の始まりは、いきなり新型コロナウイ

ルスによる休校からでした。コロナ禍の中、伝統の体育祭が 2 年連続中止となり令和 4 年度の生徒たちは全く経験のない状態で取り組まざるを得ない状況です。生徒、教職員とも初めての経験だらけの 2 年間でした。寒くても換気しながら、暑くてもマスク着用での授業が当たり前になってきました。生徒 1 人に 1 台のタブレット端末が配布され、休校時にはリモート授業が今後は当たり前になってくるでしょう。令和 4 年度は是非とも以前の高校生活を生徒に味わってもらいたいと願っています。

教職員の異動 (敬称略)

転入・新規採用

吉本 莉花 数学 成城高校より
納谷 健 数学 藤井寺高校より
三井 勝規 保体 東大阪支援学校より
麓 博之 家庭 懐風館高校より
井上 亜希 養護 長野高校より

転出・退職

磯 浩之 数学 退職
嶋田 栄美子 家庭 大阪府教育センター指導主事へ
伊藤 久美子 養護 泉陽高校へ

同窓会委員

(クラス幹事と学年幹事*)

普通科 65 期生・芸能文化科 27 期生

1 組 佐々木一途 多賀井詩笑
2 組 小田 拓実 西村 灯
3 組 足立 翔太 六車 朋花
4 組 北田 莉夢 内山 未都
5 組 西田 優翔 松井 実咲
6 組 一木正太郎 山添 里紗
7 組 徳寄 翔大 飯沼 虹美*
8 組 中辻 悠太* 徳田 紬

